元気な街づくり

IT活用編

スマホ結んで街インフラ
〝今どこ？〟から見守りまで

今年も8月29日～30日に、商店街通りを舞台として行われた高円寺阿波おどり。全国各地の約80連が参加するとあって事務局には、お目当ての連は〝今どこ？〟との問い合わせが引きもきらない。そんななかで今年は、近距離無線通信の発信機器「iBeacon（アイビーコン）」によって、各連の位置情報をスマホ（スマートフォン）端末へ地図表示するサービスが登場して話題となっている。

リアルタイムに各連の位置表示

今回は全国から参加した約80連のうち、地元の高円寺阿波おどり連協会に参加する30連について、それぞれの高張提灯の先端に直径3㌢㍍ほどの円形の電波発信機「アイビーコン」を配備した。

その各アイビーコンが発信する信号を、30㍍圏内にいる観客等のスマホ端末が検知して位置情報としてサーバーへ通知。これにより、外部からサーバーへアクセスしたスマホ端末に、リアルタイムにて各連の位置情報を地図表示できるという仕組みだ。

同サービスを稼動させるために必要となるのが、アイビーコンの信号を検知して位置情報として通知する〝中継局〟役のスマホ端末と、サーバー内の位置情報に外部からアクセスするスマホ端末、その双方にイベント専用のアプリ「阿波おどり連追跡アプリ」がダウンロード済みであること。同追跡アプリをダウンロードすれば、専用サイトにアクセスすることでイベント概要や各連の紹介、そして各連の位置情報地図をリアルタイムに照会できる。

1100店から30㍍内の端末へ

今回活用されたシステムは、今年2月に杉並区商連青年部の企画により、高円寺南口地区および荻窪地区の合計18商店街・約1100店店頭に導入したスマホ対応型商店街情報発信サービスを利用したもの。今回の阿波おどり連追跡アプリでは「動く」連へのアイビーコンの配備となったが、前回のものは街・店への集客との目的から「動かない」店頭に配備した点が異なる。この固定型では、専用アプリ「とくポン！」をダウンロード済みのスマホ端末が店頭に近づくと、アイビーコンを検知した端末に各店のお得情報やクーポンなどが配信される。

アイビーコンはアイフォンやアイパッド、アンドロイド・スマホ端末等に対応しており、今後は導入済みの英語以外の多言語対応も拡充していく方針。今年2月～3月のPRイベントでは、高円寺南口地区および荻窪地区にて、各アイビーコンをチェックポイントとしたラリー・イベント企画も開催して街全体の回遊性向上に寄与している。

地域を網羅して販促や安全安心

現在のところは実証実験との位置づけで、今後も随時サービスを見直しつつ本格運用へ向けて準備していく方針。とくに今回の実施では、専用アプリをいかにより多くの来街者にダウンロードしてもらうかが大きな課題となった。位置情報の正確かつスムーズな表示には、アイビーコンの30㍍圏内に、専用アプリをダウンロード済みの〝中継局〟スマホ端末をいかに確保するかがカギ。店頭発の「とくポン！」販促サービスも、専用アプリをダウンロードしていなければ目の前にいる客にすら情報が届かない。

そんな課題解決策として注目しているのが、アイビーコンを活用したシステムに公共的な利用価値を盛り込む方向性だ。「子どもやお年寄りにアイビーコンを持ってもらい、地域の方々のスマホを利用して位置情報を集約・共有すれば、安全安心に寄与する見守り機能にも貢献できる」と上原青年部長。ITインフラには、参加者が増えるほど個々の利便性、そして社会全体の利用価値が高まる相乗効果が期待される。リアルな拠点性を持つ商店街ならではの、来型・社会貢献型のIT活用策に期待したい。

各連の高張提灯に内蔵のアイビーコン発の位置情報をスマホのアプリ地図上に表示

杉並区商連青年部
▽部　長＝上原　正
▽連絡先＝杉並区阿佐谷南3-2-19 区立産業商工会館（区商連）
▽電　話＝03-3220-1221
▽活動内容＝近距離無線通信の発信機器「iBeacon」について、今年2月の区内1100店舗への配備に続き、高円寺阿波おどりでも活用

〝面〟の魅力、マップで発信

街歩きブームや訪日外国人観光客の増加などを受けて、都内各地の商店街でユニークな街案内マップが続々と登場している。観光集客を地域経済活性化へとつなげるには滞留性・回遊性を最大化するべく、〝点〟の個店のみならず街エリア全体の〝面〟の魅力を、携帯性の高いマップでビジュアルにアピールすることは有効な一策。隣接商店街連携での合同マップや多言語対応、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）連動での口コミ受発信、緊急時対応機能など、店舗集積性を活かした商店街ならではの創意工夫が目白押しだ。

多言語対応で訪日客誘引
ドル決済や英語メニュー

近年、都内各地の商店街で続々と発行されているのが、多言語対応型マップだ。「クールジャパン」のメッカとして、外国人観光客の人気スポットランキングで上位を占める千代田区の秋葉原地区。秋葉原電気街振興会の日本語・英語併記版「秋葉原電気街マップ」には、外国人向けの消費税免税制度に対応している「タックス・フリー・ショップ」や、パスポートを見せると2週間無料で使える訪日外国人向けWi-Fiカード提供店の位置表示などを網羅。また、地図を頼りに街を歩く際に店頭の日本語表記の店名と照会しやすいように、各店名も日本語・英語併記で記載するなど、外国人観光客の目線に立った編集が特徴だ。

米軍横田基地に隣接している立地により、外国人来街者への店頭対応では先進地と言えるのが福生市の商店街だ。その福生商工会ではこのほど、米軍横田基地前に伸びる国道16号線沿いの福生武蔵野商店街振興組合と横田商栄会の計88店舗を紹介する、英語版「福生ベースサイド・ストリート・マップ」を作成。基地内に住む米兵やその家族らを想定したもので、①英語メニューの有無②英語が通じる店員の存在③米ドルでの支払いの可否――などの各店情報が盛り込まれている。

とくに「ミウラ折り」と呼ばれる蛇腹状にたたんだ装丁が特徴的で、これは対角線部分を持って左右に引いて広げられ、たたむのも簡単な折り技法の一種。制作にあたっては、中央大学総合政策学部・細野助博教授主宰のゼミ生の協力も得ている。

ウェブ上の地図と連動
口コミや災害状況共有化

紙ベースの外国語対応型の街案内マップをインターネット上のマップと連動させることで、通常時は口コミ観光情報を、緊急時には災害情報を、効果的に来街者同士で共有できる機能を持たせているのが世田谷区下北沢駅周辺の6商店街だ。

まず紙媒体としては、「下北沢商店街マップ」および保存版冊子「下北沢商店街ガイドマップ」を日本語・英語対応で制作。これに連動させて、ウェブ上のマップを備えた「下北沢オフィシャルポータルサイト」（http://www.shimo-kitazawa.tokyo/）を立ち上げている。

同サイトはSNS的な情報共有機能を持ち、「リポート送信」機能を使って誰でもリアルタイムに、コメントを地図位置や画像情報ともにアップロードできる（右下の画像参照）。通常時には街や店の口コミ情報を共有するサイトとして、災害時には各地点での被害状況等を共有するクライシス・マッピングとして活用できる仕組みだ。

紙媒体のマップには、イベント情報、トイレやベンチ、授乳施設などのアメニティ情報に加えて、安全安心情報としてAEDや消火器、避難所、医療救護所、帰宅困難者支援施設なども網羅。紙媒体とネット媒体のメディアミックス型のマップにより、口コミ販促効果から減災効果まで幅広い効果が期待される。

下北沢阿波おどりでは、来街者発の「ここ見やすい!!」コメントとともに、地図上の場所が示される

見開き面が古地図風となったフォルダは、店ごとの位置やメニューを記したチラシ入り＝十二社商店親睦会

〝江戸の奥座敷〟古地図から発信
十二社ガイドブック

英文併記型の「十二社を楽しむガイドブック～江戸の昔は奥座敷　今は都のお膝元～」を制作したのが、新宿区の十二社商店親睦会だ（上の画像参照）。フォルダ仕様の装丁の見開き面には、古地図仕立ての商店街マップや江戸時代からの街の由来などを日本語・英語双方で紹介。差し込み部分には、地元飲食店の地図上の位置情報や店主からのメッセージ、メニュー一覧などを、各店1枚ずつで紹介する両面刷りチラシ20店舗分・20枚がセットされている。

今回は昨年度の商店街活性化事業「にぎわい補助金」の助成を受けて4000部を制作。各店頭のほか、外国人宿泊客の多い地元ホテルなどで配布しており、商店街会員の半数近くを占める飲食店をPRしている。

とくに店ごとのチラシでは、表面を日本語、裏面を英語としており、店頭でのメニュー選択時の〝指差し〟会話ツールとしても有効活用されている。同商店街では周辺のホテルから、地元とのふれあいが期待される地場飲食店を好む外国人宿泊客が多く訪れるようになっており、語学面の不安から躊躇しがちな地元店主が、積極的に観光集客に取り組むきっかけとなっている。

広域型の人気店呼び水に街巡り
下北沢かき氷マップ

広域集客に成果を上げている人気業種を中心に据えた、ユニークな視点での商店街マップを制作したのが、世田谷区のしもきた商店街振興組合だ。昨年8月に制作した「下北沢かき氷マップ」では、行列ができる地元の人気かき氷提供店5店舗にフォーカス。かき氷を目的に訪れた広域客が、他店へと回遊する効果も得ている。

同マップでは、かき氷や食べ方マナー紹介とともに、見開きマップには他業種店情報やフリーWi-Fi拠点、公衆トイレ、ATM情報も網羅。日本語版のほか、英・中（簡体・繁体）・韓国語版を制作している。

3商店街合同で地元の逸品PR
北町逸ピン！MAP

旧川越街道沿い3商店街が合同で制作しているのが「北町逸ピン！MAP」シリーズだ。練馬区の北一商店街振興組合、きたまち商店街振興組合、ニュー北町商店街振興組合では5年ほど前から、各商店街が順番に7～8店舗ずつを紹介する逸品チラシや逸品マップを制作してきた。いずれも手書きイラストタッチで、店主の笑顔や店の逸品をPRするかたちの統一フォーマットだ。

このほど3商店街それぞれに制作したチラシの全掲載店舗を、1枚のチラシにまとめた「総集編」マップも制作。こうして地道かつ継続的・統一的なマップでの情報発信を続けてきたことで、地元マンション業者の物件宣伝チラシや地元タウン誌でも、マップに掲載された商店街や店を紹介する動きが出てくるなど、〝面〟の街としてのPR効果も得つつある。

四季別ルートや海外で直接配布

港区では季節ごとに、日・英対応の街歩きマップ「ハレノヒ」を発行している。ストーリー仕立ての編集が特徴で、今夏版のテーマは「運河を歩こう！」。田町駅をスタート地点に和菓子店や酒蔵、産業技術の拠点、温泉、芝浦商店会など、外国人目線を意識した季節に応じた街巡りルートを提案している。

（一社）新宿観光振興協会では、訪日外国人向けに新宿区を紹介するマップとして、海外配布用・国内配布用を別立てで制作している。海外用には英・中（簡体・繁体）・韓・タイ語版があり、東京都全体のなかでの新宿の位置、空港からの交通アクセスなどを地図とともに紹介。国内用は日・英・中・韓国語版があり、区内5エリアごとのより詳しいマップで観光スポットや店情報を網羅。とくに海外用マップは各国の123社の現地旅行会社に配布するなど、旅行計画段階からのPRで、新宿エリアへの誘客を後押ししている。

お休み処にヒノキ舞台
花の辻（みちびき）（振）　芸者衆、芸大生とも連携

休憩所内にはヒノキ舞台も備える

東京でも屈指の花柳界が広がる台東区・浅草観音裏地区。高級料亭や芸者置屋・見番も点在し、通りを歩けば料亭へ向かう芸者衆の着物姿や三味線や太鼓の音が聞こえてくることも。浅草や東京スカイツリーから観光客を呼び込む発信拠点にしようと、地元みちびき花の辻商店街振興組合（辻村勇理事長）が3年前に設置したのが「お休み処茶房　花の辻」だ。

これは商店街メイン通りである柳通りの脇道沿い空きスペースを改装したもので、日本舞踊の稽古場だったという旧構造を活かしたお座敷風の設えが特徴。休憩スペースの奥には金屏風を備えたヒノキづくりの舞台も設置され、「興」「響」をテーマに、楽しく遊んで学べる「おもてなし」スペースとの位置づけだ。

運営は商店街の女性部員らが担い、文化企画としては地元の芸者衆や東京芸大などの〝地域資源〟を活用。芸者衆とのお座敷遊びや投扇興、三味線や長唄、クラシックやジャズコンサートのほか、地域コミュニティ拠点としても、地元から講師を迎えての料理やフラワーアレンジメント、陶芸教室などを開催している。

さらに今後は、「地域交流の場としての機能に加えて、観光客などにも花柳界文化を広く発信していきたい」（若林千代子　商店街女性部部長）との方針。3カ年度の家賃への行政助成が今年3月で終了したことから、休憩所やイベント会場機能に加えて、レンタルスペース、地方の物産販売、加盟店の料理提供などの収益事業にも力を入れている。

専門家チームが商店街の活性化やお店の経営改善をお手伝いします！

商店街パワーアップ作戦
(専門家チームの派遣) のご案内

こんなお悩みありませんか
●個店の売り上げに悩んでいる
●商店街でのイベントがマンネリ化している
●ITを活用したいがどうしていいかわからない

東京都内の商店街・商店に対し、実務に明るい専門家が
実践的・具体的にアドバイスします。しかも！費用は無料です。

パワーアップ作戦の流れ
商店街
組合・任意団体
商　店
①お申込み
②事前打合わせ
③日程調整・専門家チームの編成
④専門家チームによる支援の実施

お申込み・問い合わせは下記まで
(公財)東京都中小企業振興公社　新事業創出課
TEL:03－5822－7237
FAX:03－5822－7238
E-mail:shonin@tokyo-kosha.or.jp

公益財団法人 東京都中小企業振興公社　東京都産業労働局　※商店街パワーアップ作戦は東京都から委託を受け、(公財)東京都中小企業振興公社が実施しています